



山梨大学 医学部附属病院 病院だより

はなみずき

UNIVERSITY OF YAMANASHI HOSPITAL NEWS

大変お世話になり、ありがとうございました。

退任あいさつ 前臨床検査技師長 風間 文智



この度、3月31日をもちまして定年退職いたしました。平成元年に入職し37年にわたりお世話になりました。在職中は皆様に多大なるご指導とご協力を賜り感謝申し上げます。振り返りますとあつという間という思いの一方、いろいろなこともあったと感慨深いものがあります。臨床検査技師として飛び込んだ大学病院ではわからないことだらけで、先輩のご指導のもと何とか仕事を覚えました。そして少し経験も積んだところで紙カルテから電子カルテの移行作業に携わりました。検査部門システムと電子カルテ検査オーダーをゼロから組み立てる必要があり、検査項目にコードを一つ一つ割り振っていたときは少々つらくもありましたが、関係する方のご協力をいただき完了することができました。その際他部署の方との連携も

学ぶことができ、その経験は非常に大きいものとなりました。その後は遺伝子検査室の立ち上げやISO業務への対応などを経て、最後は臨床検査技師長を務めることができました。未熟であった私がここまでこられたことは導いていただいた諸先輩方、苦勞を分かち合った同僚や厳しい注文に添えてくれた後輩諸氏をはじめ、関わりのあった方々の支えがなければ成しえなかったものであり感謝しかありません。最後に検査部への変わらぬご高配をお願い申し上げます。山梨大学医学部附属病院と皆様方のますますのご発展とご多幸を祈念して挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

感謝 — 退任にあたり —

退任あいさつ 前がんセンター看護師長 大芝 まゆみ



この度、令和8年3月31日をもって退職することとなりました。私は、県外の私立大学病院勤務やクリニックの師長を経験し、山梨では、看護師の基礎教育の教員を経て、平成12年4月に山梨大学医学部附属病院に就職いたしました。就職後は、外来や外科病棟を経験し、がん化学療法看護認定看護師の資格を取得し、病棟付で認定活動を行ってまいりました。その中で、急遽、緩和ケアチームの専任の看護師が産休に入るといことで緩和ケアの領域も兼任することとなりました。ちょうど、その時に医療用麻薬の事故の対応に携わることになり、医療安全を守るための管理体制の重要性を学ばせてもらいました。その後、外来の師長の任についていた時に、Covid19対応の時期にあたり、発熱外来立ち上げや運営について取り組むことになりました。

最終の配属先であるがんセンターでは、それぞれの専門性の異なる部署の体制作りを師長として行うこととなりました。このように様々な場面で重要な案件を急遽対応しなければならない役割が課せられましたが、何とかやってこれたのは、偏に一緒に苦楽を共にしてくれたスタッフの存在があったからだ感謝申し上げます。自己の認定看護師の領域では、がん化学療法薬の点滴の穿刺資格制度の「ケモナース」の体制整備や念願であった「がんサロン」の設立などが、退職前にできたことが喜ばしいことだと思っております。常勤としては退職いたしますがこれからも非常勤として勤務してまいりますので、今後も引き続き宜しくお願いいたします。

退任あいさつ

前副看護部長 小泉 夫美子



令和8年3月31日をもって、副看護部長の職を退任することとなりました。

昭和62年に新採用として入職して以来、旧3階東病棟に配属され、主に助産師として長年勤務してまいりました。

院内助産や助産師外来の立ち上げ、さらには助産師キャリア開発ラダーの作成など、助産師業務の発展に携わる機会に恵まれ、多くの学びを得ることができました。現在も小学校での「いのちの授業」や地域での「孫育て講座」など、助産師としての活動を続けておりますが、いずれも命の大切さを伝える貴重な場として、やりがいを感じております。

副看護部長としては、質保証、業務、教育を担当いたしました。特にコロナ禍においては、ダイヤモンドプリンセス号の受け入れ対応に始まり、コロナ病棟へのスタッフ配置、クラスター対応など、病院全体で一致団結して困難に立ち向かった経験が強く印象に残っております。助産師という専門領域にとどまらず、医師、事務、コメディカルの皆様と協力しながら取り組んだ日々は、自身の成長を大きく後押ししてくれました。

数々の困難を乗り越えることができたのも、皆様の温かいご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。今後も引き続き病院にて勤務いたしますので、変わらぬご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度医学部離任式



左から、木内病院長／伊藤総合分析実験センター助教／宮澤生化学講座第2教室教授
／風間臨床検査技師長／小泉医学域長・医学部長

令和8年3月31日、本学を含む公的機関等に20年以上勤続し、令和7年度末で退職となる医学部所属の方々の離任式を挙行了しました。

式では、笠井秀二医学域総務課長による退職者紹介の後、小泉修一医学域長・医学部長および木内博之

病院長が、退職者の永年の功勞に対し感謝の言葉を述べました。その後、退職者がそれぞれ挨拶し、総務課、検査部など、様々な部署の在職職員が花束を贈呈し、盛大な拍手を送りました。式終了後には出席者同士で記念撮影を行うなど、和やかな雰囲気の中で締めくくりました。

「日本口腔腫瘍学会総会・学術大会」で学会賞を受賞

歯科口腔外科 准教授 吉澤 邦夫



このような賞をいただくことができ、誠に嬉しく思います。本研究を進めるにあたり、ご指導・ご支援いただきました融合研究部の皆様方、本学工学部コンピュータ理工学科、人体病理学講座の先生方、関係各位に厚く御礼申し上げます。

受賞題目は「口腔扁平上皮癌における細胞間橋の臨床病理学的評価と機械学習による自動セグメンテーションの検討」です。機械学習を用いることで細胞間橋を自動的に抽出できるシステムを開発し、細胞間橋の消失が腫瘍の悪性度や生命予後と関連していることを示唆しました。

この受賞を糧にして、今後とも臨床における課題やニーズを研究へ発展させ、臨床、教育、研究に生かして参りたいと思います。

「山梨健康ブレインハートフェスタ」を開催

循環器内科 助教 渡邊 陽介

令和8年1月25日、山梨大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター主催による「山梨健康ブレインハートフェスタ」を、イオンモール甲府昭和にて初開催しました。高齢化が進む日本では、脳卒中や心臓病は死亡や要介護の主要な原因であり、発症予防、早期発見、急性期治療、再発予防、退院後の生活支援まで、切れ目のない体制整備が求められています。こうした背景のもと、循環器病対策の推進と地域連携の充実を目的として脳卒中・心臓病等総合支援センターが整備され、山梨県では令和7年4月に当院へ設置されました。本フェスタは、脳卒中・心臓病予防の重要性や心肺蘇生法・AEDの使用方法を広く知っていただくとともに、健康意識を高め、生活習慣の改善

につなげていただくことを目的に開催しました。

当日は、循環器内科、脳神経外科、神経内科の医師に加え、看護師、薬剤師、リハビリテーションスタッフなど多職種が協力し、心不全や脳卒中についての啓発講演、高血圧予防や減塩指導、AED実習、調剤体験、頸動脈エコー・片麻痺体験、体力測定・血圧測定、スタンプラリーなど多彩な企画を実施しました。会場には500人を超える地域の皆さまにご来場いただき、脳卒中・心臓病への理解を深めていただくとともに、予防の重要性を共有する貴重な機会となりました。また、医療者と地域住民が直接ふれあう場となり、健康づくりを身近に考えていただく機会になりました。



「がん医療の今を知る - 専門家が語るがんとゲノム医療 -」を開催

がんセンター がんゲノム医療部門長 副島 研造

令和8年2月1日、当院大講堂において市民公開講座「がん医療の今を知る—専門医が語るがんとゲノム医療—」を開催いたしました。本講座は、近年著しい進展を遂げているがんゲノム医療について、市民の皆様にご理解いただくことを目的として、講演と質疑応答を組み合わせた対話形式で実施いたしました。

当日は、人体病理学講座の大石直輝先生、臨床遺伝学講座の石黒浩毅先生、乳腺・内分泌外科の中山裕子先生、呼吸器内科の齊木雅文先生、消化器外科の庄田勝俊先生と古屋信二先生、消化器内科の高野伸一先生、泌尿器科の吉良聡先生の8名の専門医が登壇し、がんゲノム医療の基礎から各臓器における最新の治療について分かりやすく解説いたしました。109名の市民の皆様にご参加いただき、関心の高さがうかがわれました。参加者からは、「治療中でも希望が持てた」「医療の進歩を実感した」「複数の専門医の話を一度に聞ける貴重な機会であった」

などの肯定的なご意見を多く頂戴いたしました。本講座は、市民の皆様にご理解を深めていただく契機となるとともに、当院におけるがん診療の取り組みを広く発信する貴重な機会となりました。今後も地域に開かれた医療情報の発信に努めてまいります。なお、講演内容は以下のサイトからご視聴いただけます。

■がんゲノム医療部門-講演アーカイブ
<https://genome-yamanashi.jp/archive/>



「山梨てんかん市民セミナー - てんかんの併存症を知ろう -」を開催

てんかんセンター長 加賀 佳美

山梨大学附属病院てんかんセンターでは、毎年てんかんに市民の皆様にご理解いただくために様々な啓発活動を行っています。その一環でてんかん市民セミナーを開催しています。

今年も、令和8年2月14日、山梨大学大講堂で「てんかんの併存症を知ろう」というテーマで、小児から成人まで、てんかんの方に多い病気やその特徴などをとりあげました。子どもに多い発達障害（神経発達症）についてのお話を、山梨大学小児科の相原悠先生、てんかんに伴いやすい精神症状について、同大学精神科の安田和幸先生、高齢者のてんかんの併存症と特徴について、甲府脳神経外科病院脳神経内科の小林理恵子先生にお話しして頂きました。

参加者は52名、20～60歳代の幅広い年齢の方にご参加頂きました。てんかんの患者さんをかかえる事業所のスタッフの方や保育所、学校関係者、患者様

家族の方などにご参加いただき、現場の率直な声や活発なご質問も頂きました。来年も皆様にご満足いただける内容で開催していきたいと思っております。またてんかん月間である10月には武田信玄像をてんかんカラーであるパープルにライトアップして啓発活動を行いますので皆様お気軽にお声かけください。



第2回やまなし減塩フェスタを開催

腎臓内科 助教 石井 俊史 教授 中島 歩

令和8年1月24日、イオンモール甲府昭和にて「第2回やまなし減塩フェスタ」を開催しました。

食塩の過剰摂取は、心筋梗塞、脳卒中、腎不全などの重大なリスク因子です。最新の報告(令和6年国民健康・栄養調査)によると、山梨県の1日あたりの食塩摂取量は、男性11.7gで全国1位、女性9.7gで全国5位と、依然として高い水準にあります。

本イベントは、こうした現状を踏まえ、減塩の重要性を広く県民に発信することを目的として開催しました。本学(当科およびプロジェクトゼロ推進ユニット)、山梨県、山梨県医師会が共催し、当日は総勢95名のスタッフが参加しました。会場では、健康相談、血圧・血管年齢測定、キッズコーナー、減塩クイズ大会、企業や大学生によるブースなど、多彩な企画が展開され、多くの来場者で賑わいました。

さらに、中央市で実施している「PROJECT ZERO for students」に参加した小中学生が探究成果を発表し、来場者の高い関心を集めました。

本イベントは、世代・職種・領域を超えた連携により、地域全体で健康づくりに取り組む意義を共有する機会となりました。

今後もやまなし減塩フェスタを継続・発展させてまいりますので、職員の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



令和7年度医学部キャンパス消防訓練について

防災・災害対策室

当院は、火災が発生した場合、多数の患者さんや来院者の安全に大きな影響を及ぼす可能性がある医療機関であることから、日頃より火災に備えた万全の体制を構築することが求められております。このため、消防・防火管理体制の強化および防火意識の向上を図り、人的被害を最小限に抑えることを目的として、毎年消防訓練を実施しています。令和7年度の訓練は、令和8年3月27日(金)に実施し、外来診療棟1階「在宅消耗品受渡窓口」付近において、第三者(不審者)による放火を想定した火災が発生したとの想定のもと、火災通報(連絡)、非常放送、自衛消防隊による初期消火、外来患者さん



もと、火災通報(連絡)、非常放送、自衛消防隊による初期消火、外来患者さん

および来院者の避難誘導等の訓練を行いました。現在改定を進めている「防災・災害対策マニュアル」の指針に基づき、実災害を想定した現実的な内容とすることで、緊張感のある実績的な訓練となりました。訓練終了後には、救急外来ピロティにおいて、施設担当職員の指導のもと消火栓を用いた放水訓練を実施しました。新型の消火栓を使用し、実災害時の消火活動を想定した操作方法を体験的に学ぶことで、参加者一人ひとりの防災意識の向上につながりました。今後も様々な訓練を通じて、「防火・防災対策の充実」および「災害発生時の安全確保」により一層取り組んでまいります。引き続き、皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。



救急車両を納車しました

救急部長 森口 武史

令和8年3月25日(水)、山梨大学医学部附属病院に新たな救急車両が納車されました。本救急車は、地域の救急医療体制のさらなる充実を目的として整備されたものであり、当院救急部における病院前救護ならびに緊急患者対応に幅広く活用されます。今回の車両導入は、近年ますます高度化・多様化する救急ニーズに対応し、救急部としての機能強化とさらなる躍進を図る重要な一歩となります。納車当日は、関係者立ち会いのもと、ディーラーより車両説明が行われ、安全性能や搭載されている医療機器について確認しました。新車両には、患者搬送時の安全性の向上に加え、迅速かつ的確な救命処置を支援するための設備が整えられており、これまで以上に手厚い救急医療の提供が期待されます。また、3月30日(月)には、一宮浅間神社において救急車両のお祓い(お清め)を執り行いました。木内病院長をはじめ関係職員が参列し、今後の無事故・安全な運用とともに、日々救急医療に携わるすべての関係者の無事を祈願しました。

本院は、地域の中核病院として、平時はもとより災害時や緊急時においても、迅速かつ的確な医療を提供する役割を担っています。今回の救急車両の導入は、これまで院内外の多くの関係者のご理解とご協力のもと進められてきた取り組みであり、その使命を果たすための基盤整備の一つです。今後も本院は、消防機関や地域医療機関との連携を一層強化しながら、地域の皆さまに信頼され、安心して頼っていただける救急医療体制の整備と質の向上に努めてまいります。



安全活動コンテスト開催

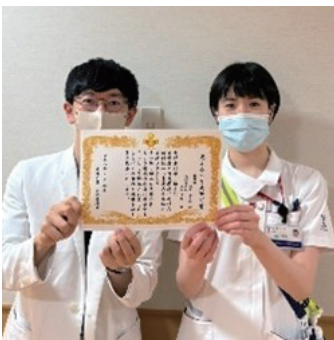
令和8年2月18日、安全活動コンテストが行われ、NICU、外来、3階西病棟、薬剤部、医事課より、各部門における医療安全に関する取り組みについて発表していただきました。



NICU 発表者／藤井愛看護師

このたびは、このような発表の機会をいただき、誠にありがとうございました。NICUは新生児のいのちを守る集中治療を「安全に行なうために」、また、ご家族に「安心して子どもを任せられる」と思ってもらえるように、

インシデントから学べる病棟作りを目標に振り返りの仕組みを作りました。病棟のスタッフ全員が協力して、この仕組みを遂行してくれたことが、安全文化の醸成につながっていると感じています。



精神科・3階西病棟 発表者／渡邊慎太郎医師・上田愛実看護師

この度は、精神科及び3階西病棟における医療安全への取り組みについて発表の機会をいただき、ありがとうございました。見える化、多職種共同など、システムの大がかりな変更をしなくても、ちょっとした工夫

で安全性が高まるそんな、どの病棟でもすぐに応用可能な安全活動を発表させていただきました。私たちの発表が、院内全体の安全文化の醸成に少しでも貢献できれば幸いです。



外来 発表者／保坂真美子看護師

この度は外来での取り組みについて発表する機会を頂きありがとうございました。5Sの定期的なチェックを行い診療科毎の特徴がみえ具体的な対策を検討することができました。そして、取り組みに対する意識

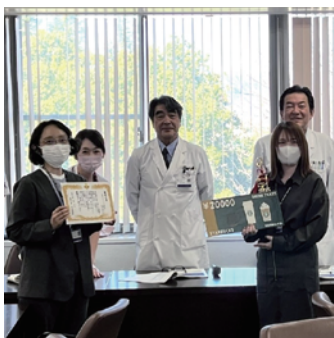
の向上へと繋げることができました。外来は多職種と密な関わりが大切であり、今後も連携を図りながらすべての患者さんに安心・安全な医療を提供できるよう取り組んでいきたいと思えます。



薬剤部 発表者／宮本仁薬剤師

薬剤部からは、保険薬局との連携強化および薬物療法の安全性向上を目的として導入した、院外処方箋への臨床検査値添付の運用について紹介しました。保険薬局からの疑義照会においても、臨床検査値を活用することで、適正かつ安全な薬物

療法の推進につながっていることを実感しています。今回の取り組みは、さまざまな職種の方々に薬剤部の活動を知っていただく良い機会となりました。今後も、安全な薬物療法を提供するための活動に積極的に取り組んでまいります。



患者とのかかわり委員会 発表者／土橋美咲・田畑有紀

この度は、発表の機会をいただきありがとうございました。投票して下さった方々、ご多忙中にもかかわらず発表を見ていただいた方々にも厚く御礼申し上げます。

今後も医師・看護師をはじめ多職種のお力添えのもと、診療記録にまつわる安全の向上に努めてまいります。引き続きご指導のほど、よろしく願いいたします。

令和8年度新部門長等の紹介

令和8年4月1日現在

■ 病院長・副病院長・病院長補佐・病院長特別補佐

病院長	副病院長						病院長補佐						病院長特別補佐
	労務管理・保険診療・病床管理	安全管理	手術・救命・再整備	臨床研究・放射線・栄養	教育	看護・患者サービス	総務	診療	感染	救急・防災・危機管理	病院経営	感染・防災対策	
木内 博之	波呂 浩孝	川村 龍吉	中島 博之	市川 大輔	桐戸 敬太	杉田 俊江	京嶋 信昌	佐藤 明	副島 研造	森口 武史	小林 美亜	塩島 正弘	

■ 中央診療部門等

部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等
検査部	井上 克枝	高野 勝弘 内田 幹	口腔インプラント治療センター	上木 耕一郎		総合支援部	波呂 浩孝	三井 貴彦 市川 二郎 山本 智子 松原 寛知
手術部	中島 博之	池本 剛大	遺伝子疾患診療センター	石黒 浩毅	矢ヶ崎 英晃			
放射線治療部	大西 洋	小宮山 貴史	脳卒中・循環器救急センター	佐藤 明	中島 博之	業務支援センター	松原 寛知	市川 二郎
放射線診断部	市川 新太郎	荒木 拓次	リウマチ膠原病センター	波呂 浩孝	川村 龍吉 中込 大樹 中尾 篤人 三井 広 松岡 伴和	医療福祉支援センター	三井 貴彦	
材料部	櫻井 大樹	荒木 拓次	アレルギーセンター	櫻井 大樹	三井 広 松岡 伴和	地域医療連携センター	市川 二郎	
輸血細胞治療部	井上 克枝	高野 勝弘	アレルギーセンター	櫻井 大樹	三井 広 松岡 伴和	病床管理室	三井 貴彦	中村 貴光 白石 謙介 櫻本 かおり
救急部	森口 武史		IVRセンター	荒木 拓次	岡田 大樹			
集中治療部	森口 武史	後藤 順子	てんかんセンター	加賀 佳美	佐野 史和	働き方改革センター	中島 歩	小川 陽一
新生児集中治療部	犬飼 岳史	小鹿 学	産前産後ウェルビーイングセンター	石黒 浩毅	奥田 靖彦 大場 哲郎	臨床教育部	近藤 哲夫	矢ヶ崎 英晃
病理部	近藤 哲夫	望月 邦夫	脊椎脊髄センター	波呂 浩孝	館岡 達	臨床研修センター	矢ヶ崎 英晃	
分娩部	奥田 靖彦		がんセンター	市川 大輔	桐戸 敬太	専門医キャリア支援センター	土屋 恭一郎	橋本 幸治
リハビリテーション部	波呂 浩孝	八木野 孝義	子宮内腹症ケアセンター	吉野 修	松原 寛知	臨床実習センター	川端 健一	加賀 重亜喜
血液浄化療法部	中島 歩	後藤 順子	初期救急医療センター	森口 武史		特定行為研修センター	波呂 浩孝	谷戸 るみ
		高橋 和也 澤田 智史	病院経営管理部	小林 美亜				川端 健一
光学医療診療部	高野 伸一	小林 祥司	医療情報部	森口 武史	小林 美亜	シミュレーションセンター	加賀 重亜喜	矢ヶ崎 英晃
総合診療部	針井 則一	中村 和人	医療の質・安全管理部	荒神 裕之	磯野 絵美			神田 藍、名取 佐知子、上原 良江、溝川 由香里
臨床研究連携推進部	望月 修一		感染制御部	井上 修		医療スタッフ研修センター	川井田 博充	加賀 重亜喜
臨床工学部	中島 博之	望月 仁	薬剤部	鈴木 貴明	橋田 文彦 小林 みわ子			山梨県地域医療支援センター
医療チームセンター	飯嶋 哲也	平田 卓志	放射線技術部	池川 博昭	小林 寛	東部地域医療教育センター	榎本 信幸	山口 達也
		熊倉 康友 金丸 明美						
生殖医療センター	吉野 修							
肝疾患センター	前川 伸哉							

■ 看護部

看護部長	副看護部長			
	総務・人事担当	教育担当	業務担当	質保証担当
杉田 俊江	大門 恵美	穴水 美和	山本 智子	北井 朋美

部門名	看護師長	副看護師長
NICU病棟	清水 陽子	寺島 由美子
GCU病棟	小泉 夫美子	藤井 愛、手塚 浩美、山本 明奈
2階西病棟	山本 ゆかり	青柳 しづか、深沢 泉、渡邊 裕美
3階西病棟	竹田 礼子	辻 稔、手塚 絵里子
4階西病棟	山本 瑠実	市川 さやか、土橋 怜奈、田草 裕美子
5階西病棟	山本 秀美	伊藤 祥子、松岡 都、土屋 公二
6階西病棟	牧野 基美	長田 和子、小林 可奈子、神宮司 文
7階西病棟	岩澤 久美	茂手木 智美、庭山 梢、入倉 悠
4階南病棟	金子 春美	大久保 香織、望月 沙織
5階南病棟	清水 美紀	土屋 一枝、渡邊 祐将、坂本 友紀
6階南病棟	伊藤 由香	長澤 美佐子、小池 美和、松田 旬美
7階南病棟		
4階北病棟	長澤 良美	橋本 瑞季、望月 文香、中込 美幸、河村 早紀
5階北病棟	坂野 雅子	日向 恵、石川 恵理、木村 慶太
6階北病棟	大森 ゆかり	高橋 真貴、飯嶋 彩子、山本 雅弘
7階北病棟	相川 真弓	浅野 ともみ、今川 茉莉恵、弦間 まみ、杉本 美貴、望月 あゆみ

部門名	看護師長	副看護師長
がんセンター	武田 陽子	小倉 幸子、河田 綾
治験センター	永田 明子	
医療チームセンター	内田 純子	堀井 悠
医療情報・診療報酬担当	鈴木 聖美	
人事担当	萩原 千代子	
教育担当	竹田 礼子	齊藤 渚、青木 絵梨子
臨床教育部	蓮沼 知津子	
臨床教育部		
特定行為研修センター	谷戸 るみ	
外来	田邊 玲子 金丸 明美	神田 藍、名取 佐知子、上原 良江、溝川 由香里
看護補助者担当	大森 ゆかり	
業務担当	田邊 玲子	
総合支援部	藤原 由理香	河西 久美子、粕山 史穂、弦間 まみ、小野田 麻由美
地域医療連携センター		
病床管理室	櫻本 かおり 三平 まゆみ	
材料部	渡邊 理映子	
物流センター	伊藤 雅美	
集中治療部	戸栗 宏子	川口 優里奈、大村 希依、熊谷 奈美、中柄 創和、秋山 友梨
手術部	青木 真里	内田 峻介、溝口 真由美、小林 ひとみ、家崎 美穂、鶴田 愛 奥水 めぐみ
救急外来	松土 裕子	佐藤 紗希、梶原 望、保坂 美佳、大沢 有紀
初期救急医療センター	杉山 千里	
総合支援部	河西 典子	東雲 由希
医療福祉支援センター		
医療の質・安全管理部	磯野 絵美	橋本 佳奈子、立澤 真子
感染制御部	矢崎 正浩	野澤 ゆい

■ 事務部

副理事	事務部長	特命参事
石原 昭	京嶋 信昌	土屋 豊

課・室名	課長	室長・補佐・専門員
総務課	笠井 秀二	細野 幸一、早川 弘美
臨床教育支援室		仙洞田 潤
経理管理課	名取 裕貴	渡辺 徹、海老名 庸
学務課	根本 栄一	加賀美 知美

課・室名	課長	室長・補佐・専門員
医事課	四氏 裕一	末木 基之
医療情報企画室		
医療支援課	山中 章平	渡邊 佐和子
医療スタッフ支援室		武井 幸子
病院経営企画課	井上 心	